

2023 年度

群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

学部・附属学校共同研究推進委員会
報告書

2024 年（令和 6 年）3 月

目次

I. はじめに	…………… 2
II. 学部・附属学校共同研究推進委員会の構成	…………… 2
III. 2023年度附属学校園研究会報告	
1. 附属幼稚園研究会	…………… 3
2. 附属小学校研究会	…………… 4～5
3. 附属中学校研究会	…………… 6～7
4. 附属特別支援学校研究会	…………… 8～9
IV. 2023年度共同研究活動報告	
1. 附属幼稚園	…………… 10
2. 附属小学校	…………… 11～12
3. 附属中学校	…………… 13～14
4. 附属特別支援学校	…………… 15～16

I. はじめに

学部・附属学校共同研究推進委員会委員長 渡部 孝子

本冊子は、令和5年度の群馬大学共同教育学部と同附属学校園との共同研究における成果や取り組みについて報告するものである。平成28年12月5日の有識者会議で示された附属学校の「使命・役割」、及び本学第4期中期目標・中期計画を踏まえながら、今年度も共同研究に取り組んできた。また、令和5年度は群馬大学創基150周年にあたり、そのルーツは明治6年に開設された「小学校教員伝習所」からなるもので、本共同教育学部並びに附属学校園と大変深い関わりがある。記念事業のキャッチ・コピー「駆けろ未来へ150年の歴史と共に」に表現されるように、群馬大学共同教育学部と附属学校園との共同研究もこれまでの歴史・伝統をつなぎながら、未来に向けて発展・深化させていく所存である。

さて、今年度の学部と附属学校の共同研究は、「公開研究会」と「学部教員や学生との共同研究」の二つに分けられる。まず「公開研究会」では、それぞれの附属学校園が定める研究テーマについて、群馬県教育委員会をはじめ各市町村の学校教育従事者との協議やご指導を仰ぎながら行ってきた実践的な研究について発信した。学部教員は研究協力者として、理論的・実践的側面から支援した。今年度は、新型コロナウイルス感染の心配が減り、各学校園の公開研究会は対面で開催された。そのため、非常に多くの方々に参加いただくことができ、活発な意見交換が行われた。公開研究会で配布される研究紀要や学習指導案集などは、学部教員との共同執筆の形を取って群馬県内外に発信されている。そして「学部教員や学生との共同研究」では、学部が案出した理論を各学校園での実践を通じた検証により質の高い研究成果を生み出している。学部教員と附属学校園教員の連携による研究により、互いの専門性を高めるための研鑽の場ともなっている。

以上の通り、令和5年度も群馬大学共同教育学部では附属学校園と連携して多くの研究成果を上げてきた。当該委員会が、群馬県における学校教育の発展に寄与できるよう、今後も継続して取り組む所存である。皆様からの忌憚のないご意見やご指導をいただくと幸いである。

II. 学部・附属学校共同研究推進委員会の構成

委員長	共同教育学部 教授（附属小学校校長）	渡部 孝子
副委員長	共同教育学部附属小学校 副校長	石関 和夫
委員	共同教育学部附属小学校 主幹教諭	佐藤 真樹
	共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
	共同教育学部 准教授（教育実践センター）	阿部 充寿

Ⅲ. 附属学校園研究会報告

1. 附属幼稚園研究会

公開研究会

○ 日時 令和5年11月3日(金) 9時～16時

○ 研究主題：夢中になって遊ぶ幼児を育む保育(2年次)

～遊びの魅力を膨らませる環境の再構成～

○ 研究の概要： 幼稚園教育の基本である「環境を通した教育」に即し、本園幼児の「夢中になって遊ぶ」姿を引き出していくための実践研究に取り組んでいる。

幼児が夢中になって遊ぶために、保育室、園庭、共有スペースが魅力的な場所となるようカンファレンスを行い、スピード感をもって再構成していくことを追求し、保育の質向上と教育課程への反映を進めていく。

○ 保育を語る会

学 級 名		保 育 者		指 導 助 言 者
3歳児(3年保育)	桃組	岩本 美里	若松 史子	渡邊 俊 先生
	空組	尾高 貴子		大島 みずき 先生
4歳児(3・2年保育混合)	赤組	山田 啄登	金井 理絵	高橋 恵津子 先生
	黄組	萩原 綾子		坂口 淳子 先生
5歳児(3・2年保育混合)	緑組	前原 未明	須田 亜希子	横坂 好枝 先生
	青組	吉野 裕介		伴内 弘美 先生



2. 附属小学校研究会

(1) 公開研究会

- 授業及び授業研究会 令和5年6月1日(木), 2日(金)
- 研究主題: 共によりよい生活を創造する子どもの育成< 1年次>
 ~非認知的能力「目標への情熱」と「粘り強さ」に着目した学びのデザインを通して~
- 研究の概要: これからの教育に求められる資質・能力の育成に向け、「非認知的能力」を高める学びのデザインと学習指導の工夫等から、各教科等の問題解決的な学習の在り方を再考し、授業改善を行う。

6月1日(木)		6月2日(金)					
学習指導Ⅰ		学習指導Ⅱ		学習指導Ⅲ		学習指導Ⅳ	
理科	 4年 雨水の行方と地面の様子 井上 俊介	国語科	 5年 要旨を捉えて、伝えよう (『言葉の意味が分かること』) 前原 聡	国語科	 2年 2年1組たんぼぼの会 (『スイミー』) 田島 友香	社会科	 6年 わたしたちの生活を支える政治 井出 悠介
くすの木タイム	 3年 集めてワクワク! 広げてウキウキ! みんなの絵本プロジェクト 関口 雄基	図画工作科	 6年 わたし色の世界(絵に表す) 貞永 瞳	算数科	 1年 ながさくらべ 中野 紗織	図画工作科	 5年 ジョイントパイプ(造形遊びをする) 大塚 裕貴
音楽科	 1年 身の回りの音をたくさん集めよう(音楽づくり) 稲森 雅明	道徳科	 6年 親切のリレー(親切、思いやり) 内田 圭祐	体育科	 3年 フロアボール 石塚 祐子	英語科	 5年 "Your school & Our school" ~留学生と学校生活について伝え合おう~ 原 雄規
体育科	 2年 むきむきおに 栗原 和馬			道徳科	 4年 時間の使い方を自分で考える(節度、節制) 樋口 晃		
各教科等部員		 英語科・英語活動部 齋藤 一紀	 生活科・総合部 飯塚 理志	 理科部 吉田 和気	 社会科部 中野 智貴	 道徳部 横尾 紗也香	 音楽科部 武居 伶音

(2) 提案授業

- 研究主題：共によりよい生活を創造する子どもの育成（2年次）
～非認知能力「他者と協働する力」を発揮する学びのデザイン～
- 研究の概要：「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を図るために、非認知能力のうち、特に「他者と協働する力」に着目し、その姿が現れるプロセスと学びのデザインの在り方について、実践を通して明らかにする。

	<理科> 令和5年11月8日（水）13：35～14：20 第4学年「金属，水，空気と温度（温まり方の違い）」 授業者：井上 俊介
	<英語科> 令和5年11月22日（水）13：35～14：20 第5学年「Who is your favorite person?」 授業者：原 雄規
	<体育科> 令和5年11月24日（金）13：35～14：20 第3学年「マット運動」 授業者：石塚 祐子
	<算数科> 令和5年11月28日（火）13：35～14：20 第1学年「かたちづくり」 授業者：中野 紗織
	<図画工作科> 令和5年11月29日（水）13：35～14：20 第5学年「にぎりごちのいいかたち（立体に表す）」 授業者：大塚 裕貴
	<くすの木> 令和5年12月12日（火）13：35～14：20 第3学年「集めてワクワク！広げてウキウキ！ みんなの絵本プロジェクト」 授業者：関口 雄基
	<道徳科> 令和6年1月18日（木）13：35～14：20 第4学年「心を一つに（友情，信頼）」 授業者：樋口 晃
	<音楽科> 令和6年1月30日（火）13：35～14：20 第1学年「みんなでおとを合わせよう（合奏）」 授業者：稲森 稚明
	<社会科> 令和6年2月1日（木）13：35～14：20 第6学年「新しい日本，平和な日本へ」 授業者：井出 悠介
	<国語科> 令和6年2月8日（木）13：35～14：20 第5学年「事例と意見の関係をおさえて読み，考えたことを伝え合おう（『想像力のスイッチを入れよう』）」 授業者：前原 聡

※授業研究会については、全授業とも授業日当日の15：45～17：15に行います。





3. 附属中学校研究会

(1) 公開研究会

- 日時 令和5年10月12日(木), 13日(金)
- 研究主題: 生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造(最終年次)
 - ① ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して
 - ② 教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実現を通して
- 研究の概要: ICTを最大限に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生徒一人一人の学びを最大限に引き出せるような授業を提案する。また、「未来創造科(総合的な学習の時間)」の実践を通して、教科等横断的な学びの実現や、現代的な諸課題に対応できる資質・能力の育成を目指した研究を進めている。





第1日目 10月12日(木)											
8:30 9:00 9:20 9:35 9:50 10:05 10:55 11:10 12:20 13:20 14:10 14:25 15:35											
受付 開会式 全体会 全体会 移 公開授業 移 授業研究会 昼 公開授業 移 授業研究会											
8:30 9:00 9:20 9:35 9:50 10:05 10:55 11:10 12:20 13:20 14:10 14:25 15:35											
教科	主 題			単元(等)名・授業者		授業PR		指導助言者			
国 語	「課題意識をもって作品の解釈を深めることができる生徒」の育成										
	公開授業① 竹取物語 授業者: 佐藤誠一郎(1年1組)	生徒が教材を読み込んで解釈を伝え合うことを通じて、課題を再構築していく姿をご覧ください。					群馬県教育委員会 指導主事 柴崎 厚志				
	公開授業② 故郷 授業者: 高橋 正人(3年2組)	生徒が課題意識をもって課題の解決を図り、その成果の発表を通じて、より作品に対する解釈を深める姿をご覧ください。					群馬大学共同教育学部 准教授 河内 昭浩				
数 学	「批判的に考察し、数学を深めることができる生徒」の育成										
	公開授業① 平行と合同 授業者: 宇賀神啓資(2年2組)	解決した問題から見いだした新たな問いについて、図形の性質をもとに考察する姿をお見せします。					群馬県教育委員会 指導主事 浦野 正				
	公開授業② 標本調査の利用 授業者: 高山 慶介(3年4組)	調査の結果を批判的に見直し、箱ひげ図や代表値をもとに考察する姿をお見せします。					群馬大学共同教育学部 准教授 澤田麻衣子				
英 語	「目的や場面、状況等に応じて、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒」の育成										
	公開授業① PROGRAM 5 The Story of Chocolate 授業者: 瀬戸 辰徳(3年2組)	「附中Can-Doシート」を用いたフィードバックを通して、単元目標達成に向けて、意見文の適切さについて考えを深めていく姿をお見せします。					群馬県教育委員会 指導主事 相川美智子				
	公開授業② PROGRAM 6 Live Life in True Harmony 授業者: 小野里健太(2年4組)	「附中Can-Doシート」を用いたフィードバックを通して、単元目標達成に向けて、表現力を高めていく姿をお見せします。					群馬大学共同教育学部 講師 津久井貴之				
保健体育	「自己の適性等に応じた運動やスポーツの楽しみ方と心的エネルギーを獲得できる生徒」の育成										
	公開授業② ダンス 「現代的なリズムのダンス」 授業者: 久保 涼子(2年2組)	現代的なリズムのダンスにおいて、ジグソー学習を通して、仲間との関わり合いの中で一人一人の役割を果たす生徒の姿をお見せします。					群馬県教育委員会 指導主事 小山 靖弘 群馬大学共同教育学部 教授 木山 慶子				
家 庭	「4つの視点を用いて新たな問題における解決策を見いだす生徒」の育成										
	公開授業② オリジナルあずま袋をつくらう 授業者: 松島めぐみ(2年3組)	見方・考え方を働かせて、自分や家族の生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画を考える場面をお見せします。					群馬県教育委員会 指導主事 中里 真一 群馬大学共同教育学部 講師 佐藤 佐織				
道 徳	「道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒」の育成										
	公開授業① 家庭での出来事 授業者: 木村 貴博(1年2組)	「附中発問集」と「スタディログ」の活用工夫を通して、道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深めている姿をお見せします。					群馬県教育委員会 指導主事 前原 稔彦 群馬大学共同教育学部 教授 益田 裕充				

第2日目 10月13日(金)

8:30	9:00	9:20	9:35	9:50	10:05	10:55	11:10	12:20	13:20	14:10	14:20	15:10	15:25	16:40
受付	開会式	全体会 総論説明	全体会 未来創造科 説明	移動	公開授業 ①	移動	授業研究会 ①	昼食	未来創造科 1・2年	移動	未来創造科 3年	移動	未来創造科 授業研究会	
教科		主題												
		単元(等)名・授業者				授業PR				指導助言者				
社会		「自らの考えと獲得した知識や他者との学びをつなぎ社会生活に生かそうとする生徒」の育成												
	公開授業① 市場の働きと経済 授業者：千明 隼 (3年1組)	生徒が経済に関する課題について、多面的・多角的に考察する姿をお見せします。				群馬県教育委員会 指導主事 丸山 剛史 群馬大学共同教育学部 准教授 栗谷 好子								
理科		「他者と協働しながら自らの考えを深め、科学的に探究することができる生徒」の育成												
	公開授業① 回路と電流・電圧 授業者：斉藤 剛志 (2年3組)	回路と電流の関係について、科学的に解決する方法を練り上げる姿をお見せします。				群馬県教育委員会 指導主事 加瀬 健 群馬大学共同教育学部 教授 益田 裕充								
音楽		「個別の探究と他者との対話を通して、音楽から新たな気付きと感動を得られる生徒」の育成												
	公開授業① 歌詞の内容と曲想を生かして 表現を工夫しよう 授業者：星野 勇希 (3年3組)	「本当はどうか見に行こうよ！」鑑賞領域での学習を生かし、最高峰の演奏と自分たちの演奏とを比較することで、新たな気付きから歌唱表現を創意工夫する力の育成を目指します。				群馬県教育委員会 指導主事 黒谷 英里 群馬大学共同教育学部 講師 伊東 陽								
美術		「意図に応じて自分の主題を追求することができる生徒」の育成												
	公開授業① 墨で描く楽しさ 授業者：多胡 慎平 (2年1組)	生徒たちが自らの主題を追求するために、墨でどのように描こうか試行錯誤する姿をご覧ください。				群馬県教育委員会 指導主事 大井 衛 群馬大学共同教育学部 教授 齋江 貴志								

未来創造科

「現代的な諸課題を探究し、夢や希望あふれる未来を創造する生徒」の育成

	未来創造科1年 群馬を知る 授業者：山口 智也 (1年3組)	他の講座の仲間と交流し、自身の探究について振り返ります。現代的な諸課題の解決に向けた真の学びをお見せします。				群馬県教育委員会 指導主事 飯塚 慎也								
	未来創造科2年 日本を探索 授業者：新井 英雄 (2年1組)	各教科の学びから作成した未来創造エレメントを整理・分析します。仲間と交流しながら、未来創造科クロスMAPを作成し、今後の生活に生かします。各教科間を横断する学びの架け橋はここにあり。												
	未来創造科3年 未来を創る 授業者：櫻井 康之(総合主任) 3学年担当教諭 (3学年)	未来創造科シンポジウムに向けた講座代表を決定します。3年間の集大成となる「わたしたち」が創るこれからの未来を提案します。								 (未来創造科ガイドブック)				

4. 附属特別支援学校研究会

(1) 校内研究授業（県内特別支援学校初任者研修提供授業）

- 授業研究会 令和5年6月23日（金）
- 目的
 - ・ 初任者への授業提供と授業研究会を通して、今年度ここまで取り組んできた研究の成果と課題を見出し、今後の取り組むべき研究内容を一層確かにすること。
 - ・ 研究協力者と協議を行う中で、研究内容やこれまでの取組についての評価・改善の機会とすること。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「どんなおと？ きいて かんじて あらわそう」	音楽科 (身体表現)	横堀 莊子 宮前 篤嗣 長田 紗綾
中学部	「みんなで ひらこう！ にこちゃん屋」	生活単元学習	林 和泉 山口 哲平
高等部	「数えて 計算して ぴったりを目指そう」	数学科 (数と計算)	島田 大樹 酒井 莉紗

(2) 公開研究会

○ 令和5年11月10日（金）

○ 研究主題：子どもが自ら考え、学び合う授業実践（2年次）

～知的特別支援学校における「個別最適な学び」と

「協働的な学び」の一体的な充実のための視点を通して～

○ 研究の概要：知的障害特別支援学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」

が一体的に充実するために必要な支援や手立てを明らかにする。2年次計画の2年目は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が相互に往還し合うことに主眼を置き、一体的に充実するための授業づくりの視点について本校の考え方を示す。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「みんなと ぎゅうぼん！じゃんぶしよう」	体育科 (走・跳の運動)	小泉龍之介 横堀 莊子 長田 紗綾
	「かみらんどで あそぼう」	遊びの指導	小須田朱理 武井 香織 堀部 慧
中学部	「えらんで つなげて 伝えよう！ ～『〇〇ものがたり』～」	国語科 (書くこと)	小越 薫子 山口 哲平 小倉 彩
	「まげよう ためそう あわせよう」	美術科	山田 啓太 小林 弥生
高等部	「お客様が満足するカフェスマイルにしよう」	作業学習 (喫茶サービス)	吉田 恵理 和田 拓
	「マット運動～声をかけあって 技をマスターしよう～」	体育科 (器械運動)	酒井 莉紗 島田 大樹 石井 翔也

IV. 共同研究活動報告

1. 附属幼稚園

(1) 共同研究

大島みずき：公開研究会を含む保育及び研究についての通年における助言

(2) 共同研究例

○ 研究に係る指導助言

- ・テーマ：夢中になって遊ぶ幼児を育む保育(1年次)

－遊びの魅力を膨らませる環境の再構成－

- ・発表者：岩本 美里，尾高 貴子，山田 啄登，齋藤 里衣，前原 未明，吉野 裕介
- ・期日：令和5年4月27日(木)
- ・概要

夢中になって遊ぶ幼児を育むための環境の構成や再構成について話し合い，本園研究への理解を深めた。

保育の出発点である幼児を理解するためのポイントや環境構成について助言を受け，共通理解を図った。

○ 研究に係る保育実践への指導助言

- ・テーマ：夢中になって遊ぶ幼児を育む保育(2年次)

－遊びの魅力を膨らませる環境の再構成－

- ・対象：3歳児
- ・保育実践者：尾高 貴子，岩本 美里，若松 史子
- ・期日：令和6年1月9日(火)
- ・概要

保育実践における「3歳児が初めて『はさみ』を使う時の製作の具体的な例」について，幼児の発達と絡めて検討を行った。

はさみを初めて使う時に適した教材を考える際，紙の厚さ，切る長さ，その紙の持ち方・支え方，また扱いについての注意，その伝え方についての再検討の機会となり，環境の再構成の必要性に繋がった。

2. 附属小学校

(1) 共同研究一覧

全体研究 4月～6月 共によりよい生活を創造する子どもの育成 ～『目標への情熱』と『粘り強さ』に着目した真正な学びのデザインを通して～
9月～3月 非認知能力「他者と協働する力」を発揮する学びのデザイン

教科・対象	附属小教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	前原 聡 田島 友香	濱田 秀行	研究会 4月～6月：自分の思いを基にした学習課題を解決するために、言葉のもつ特性に着目しながら認識・思考・表現を繰り返す学び 9月～3月：言葉のもつ特性に着目しながら認識・思考・表現を繰り返し、言語能力を高める学び
社会科	井出 悠介 中野 智貴	宮崎 沙織	研究会 4月～6月：社会的事象の仕組みや人々の営みと自らを含む人々の生活とのつながりを見いだす学び 9月～3月：社会的事象の仕組みや実社会と自らとの関わり方を見いだす学び
算数科	中野 紗織	小泉 健輔	研究会 4月～6月：自分や友達が表示した解決方法を評価・改善しながら、数学のよさに気付く学び 9月～3月：事象を数理的に捉え、表現し、評価・改善を繰り返して、よりよい解決方法にする学び
理科	井上 俊介 吉田 和気	益田 裕充	研究会 4月～6月：生活の中にある自然の事物・現象についての自他の不確かな考えを基にした問題を科学的に解決する学び 9月～3月：既にもっている自然の事物・現象についての考えを科学的な考えにする学び
生活科	関口 雄基 飯塚 理志	大島みずき	研究会 4月～6月：身近な人々や社会及び自然と自分のつながりを見いだしながら関わる学び 9月～3月：思いや願いの実現に向けて、自ら対象(周囲にある人・もの・ことや自分自身)と関わり、それらに対する自分なりの価値を見いだす学び
総合	関口 雄基 飯塚 理志	音山 若穂	研究会 4月～6月：身近な人々や社会及び自然と試行錯誤しながら関わり続ける学び 9月～3月：思いや願いの実現に向けて、自ら対象(周囲にある人・もの・ことや自分自身)と関わり、それらに対する自分なりの価値を見いだす学び
音楽科	稲森 稚明 武居 伶音	吉田 秀文	研究会 4月～6月：感性を働かせて、音や音楽を自分のイメージや感情、経験と結び付け、音楽を価値付ける学び 9月～3月：感性を働かせて、音や音楽から感じ取った曲想と聴き取った音楽の構造を結び付け、自分のイメージや感情・経験と関連付けながら自分にとっての音楽のよさや美しさを確かなものにしたたり更新したりする学び
図工科	大塚 裕貴 貞永 瞳	郡司 明子	研究会 4月～6月：対象や事象を造形的な視点で捉え、感覚や行為を通して自分にとっての意味や価値をつくりだす学び 9月～3月：対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだす学び
	大塚 裕貴	郡司 明子	6月～1月 学生の修士論文作成に向けた実践への協力
	貞永 瞳	市川 寛也	6月～1月 学生の修士論文作成に向けた実践への協力
家庭科	佐藤 真樹 鈴木真佐子	上里 京子 佐藤 佐織	6月～1月 学生の卒業論文のための調査への協力
体育科	石塚 祐子 柴原 和馬	鬼澤 陽子	研究会 4月～6月：「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、運動やスポーツのもつ楽しさや喜びを仲間と共に実感できる学び 9月～3月：「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、運動やスポーツのもつ楽しさや喜びを実感する学び
	石塚 祐子	木山 慶子	6月～1月 学生の修士論文作成に向けた実践への協力
	石塚 祐子	鬼澤 陽子	学生の卒業論文のための調査への協力 「小学校における体育授業と学級集団意識の関係に関する検討」
	北浦 佑基	鬼澤 陽子	研究 「小学校中学年における運動有能感を高める指導方略の検討」
	北浦 佑基	鬼澤 陽子 田井健太郎	研究 「ボール操作に関わる力の調整力の発育・発達過程に関する調査研究」
道徳科	樋口 晃 内田 圭祐 横尾紗也香	山崎 雄介	研究会 4月～6月：自己の生き方に対して、様々な他者と考えを伝え合い、自己の経験や感じ方と照らし合わせながら、自己の生き方について問い続ける学び 9月～3月：子どもたちが、自らの道徳的価値観を基にし、他者の道徳的価値観に触れながら、よりよく生きる基盤となる道徳性を育てていく学び
英語活動 英語科	原 雄規 藤藤 一紀	津久井貴之	研究会 4月～6月：実生活と関わる目的や場面、状況において、自分の考えや気持ちを相手と伝え合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感する学び 9月～3月：目的や場面、状況等のある言語活動を通して、自他の考えや気持ちを伝え合う学び
群馬大学共同 教育学部教職 実践センター	井上 俊介 関口 雄基 吉田 和気	林 和弘 上原 永次 益田 裕充	児童が科学的に問題解決を行うことを促す学習デザインに関する研究 —単元構想シートの活用による科学的な問題解決の過程の創出—

(2) 共同研究例

○ 体育科 共同研究授業実践

- ・テーマ：中学年のハンドボールを基にした易しいゲームづくり
- ・対象：小学3年生
- ・目的：小学校の体育授業におけるゴール型の系統性のある年間計画作成に向けて低学年の「ゲーム」領域の学習内容を踏まえた中学年の「ハンドボールを基にした易しいゲーム」の授業づくりを行い、その学習成果を検証する。
- ・授業実践者：北浦 佑基
- ・期日：6月12日～7月7日（全8時間）

・単元計画：

時	学習活動
1	・試しのゲームを行い、共通のめあてを立てる。 共通のめあて パスをつないで、シュートしやすい位置に移動して、ノーマークでシュートをする動きを身に付けて、2ゴールハンドボールを楽しもう。
2	・シュートが決まりやすい場所やシュートのポイントを見付けて、ゲームに取り組む。
3	・走っている味方にパスをするポイントを見付けて、ゲームに取り組む。
4	・シュートが打ちやすい場所にボールを運ぶ動きのポイントを見付けて、ゲームに取り組む。
5	・ボール保持者と自分の間に守りを入れないようにする動きのポイントを見付けて、ゲームに取り組む。
6	・周囲の状況を見て、パスかシュートかを判断する動きのポイントを見付けて、ゲームに取り組む。
7	・簡単な作戦を選んで、ゲームに取り組む。
8	・2ゴールハンドボール大会を行う。

・実践内容：

学習指導要領のゲーム領域ゴール型の指導内容を受け、本単元では、的を斜めに配置したゴールを、コート左右に2つ設置し（図1）、メインゲームは、3対2で行い、守りの一人がプレイ開始に合わせてコートに入ってくるというルールを設定した。そのため、守りがいない場所を見付けやすくなり、その場所に素早く移動し、ボールを受け取るというボール保持者と自分との間に守りを入れないようにする動きを身に付け、ノーマークでシュートすることが容易になる。



<図1 コート図>

子どもたちは、周囲の状況を見て、自分の前に守りがいるときには、味方にパスをし、自分の前に守りがいないときには、シュートをするなど、適切にプレイ選択している様子が見られた。パスでボールを運び、ノーマークでシュートをして得点するといったゴール型ゲームの特性に応じた楽しさや喜びを十分に味わうことができた。6月26日（月）には、単元の6時間目を県内の体育担当指導主事に公開し、小学校及び中学校体育・保健体育教育課程研究協議会を行った。この協議会には、スポーツ庁の塩見教科調査官が参加し、指導講評をいただいた。

3. 附属中学校

(1) 共同研究一覧

教科・対象	附属中教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	高橋 正人 佐藤 誠一郎	河内 昭浩	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：課題意識をもって作品の解釈を深めることができる生徒の育成 センター論文：「中学校国語科におけるICTの効果的な活用についてー映像化による「読むこと」の深まりを目指してー」（群馬大学教育実践研究紀要第41号）
社会	千明 隼	栗谷 好子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：自らの考えと獲得した知識や他者との学びをつなぎ社会生活に生かそうとする生徒の育成
数学科	高山 慶介 宇賀神 啓資	澤田麻衣子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：批判的に考察し、数学を深めることができる生徒の育成
理科	斉藤 剛志	益田 裕充	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：他者と協働しながら自らの考えを深め、科学的に探究することができる生徒の育成 卒業論文：課題を設定する場面の学習過程に関する実証的研究（研究支援） 卒業論文：課題を設定する場面で教師の介入による学生の変容に関する研究（研究支援） 卒業論文：課題と結果の表出の関係に関する研究（研究支援） 卒業論文：解決の方法を立案する場面の学習過程に関する実証的研究（研究支援）
		櫻井 康之	益田 裕充
	佐藤 綾	大学地域貢献事業：ゲノム医療の地域社会実装に向けたゲノムリテラシー育成のための教材開発（研究支援）	
音楽科	星野 勇希	伊東 陽	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：個別の探究と他者との対話を通して、音楽から新たな気付きと感動を得られる生徒の育成
美術科	多胡 慎平	齋江 貴志	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：意図に応じて自分の主題を追求することができる生徒の育成
技術科	山崎 真	小熊 良一	論文：「材料と加工の技術」の授業における3DCADを使った設計学習の効果（共同研究）
家庭科	松島 めぐみ	佐藤 佐織	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：4つの視点を用いて新たな問題における解決策を見いだす生徒の育成
保健体育	久保 涼子	木山 慶子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：自己の適性等に応じた運動やスポーツの楽しみ方と心的エネルギーを獲得できる生徒育成
道徳科	木村 貴博	益田 裕充	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒の育成
未来創造科	櫻井 康之 新井 英雄 山口 智也 生方 佑樹	上原 永次	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：現代的な諸課題を探究し、夢や希望あふれる未来を創造する生徒の育成 センター紀要：総合的な学習の時間「未来創造科」を軸とした教科等横断的な学びの実現に関する実証的研究ー教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成及び統合を通してー（共同研究）
英語科	小野里 健太 瀬戸 辰徳	津久井貴之	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して ②教科等横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して 4月～10月：目的や場面、状況等に応じて、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒の育成

(2) 共同研究例

○ 技術科 共同研究授業実践

- ・テーマ：3DCAD で未来のモノづくり
(材料と加工の技術)
- ・対象：1 学年
- ・授業実践者：群馬大学共同教育学部技術教育専攻
講師 小熊 良一



- ・期日：令和5年10月17日(火)…1時間目, 25日(水) 27日(金)…2時間目
- ・概要：1時間目は、「設計において3DCADを使うメリットを知り、3DCADを使った基本的な設計ができる。」を目標に授業を実施した。導入では、本時の課題をつかむために、「ものづくりにおける設計の意義」「等角図及び三角法」といった前時までの学習内容を振り返らせた。次に、3DCADの特徴を捉えるために、手書きによる設計と3DCADによる設計のメリット・デメリットを調べることで、3DCADの特徴を捉えられるようにした。生徒は、メリットとして「設計・製図作業の効率化」や「図面の共有・管理の容易化」を挙げていた。また、デメリットとして「ソフトウェアの習得及び価格」を挙げていた。その後、実際に3DCADソフトウェア「作ってみよう」を使って設計を行った。具体的には、①3DCADの基本を知り、基本操作を習得する。②3DCADを使った設計体験。③「板材作成機能」を使った設計方法を習得する。の3点を行った。3DCADソフトウェア「作ってみよう」には、課題機能があり、生徒はその中の一つである「えんぴつ」の設計をすることを通して基本操作の習得をした。さらに、他の課題にも取り組むなど、多くの生徒が意欲的に取り組むことができた。また③「板材作成機能」を使った設計方法では、設計の手順として「板材作成→切断→板を立てる→板を配置する→組立図、部品図作成」と段階を追って説明することで、全員の生徒に基本操作を習得させるようにした。また、この機能を使って自分の作品の設計をするため、実際に製作する材料の大きさ設計を体験させることで、個々の作品の設計につながるようにした。

2時間目は、「設計において3DCADを使うメリットを生かして、3DCADを使って自分の製作する作品の設計ができる。」を目標に授業を実施した。導入では、前時で学習した「ものづくりにおける設計の意義」や「3DCADの基本的な操作」を確認することで、本時の課題「3DCADソフトウェア『作ってみよう』を使って設計をしよう」をつかむことができるようにした。次に新たな機能として「平行切断」「自由切断」「座標軸移動」「データの保存方法」を学ばせた。そして、前時に学習した機能と新たな機能を使いながら、各自、自分の作品の設計を行った。生徒は、3DCADの操作方法の理解が不足していることや3DCADを使って自分の構想したものを具体化することに難しさを感じながらも試行錯誤しながら設計することができた。

4. 附属特別支援学校

(1) 共同研究一覧

教科等	学部	特別支援学校教員	研究協力者・指導教員	時期	単元名・題材名／内容	
国語科	中学部	小越 薫子 山口 哲平 小倉 彩	高崎健康福祉大学 人間発達学部子ども教育学科 特別支援教育講座 国語教育講座	浦崎 源次 木村 素子 河内 昭浩	9月～ 11月	「えらんでつなげて 伝えよう！ ～『〇〇ものがたり』～」 (書くこと)
数学科	高等部	島田 大樹 酒井 莉紗	東京福祉大学 保育児童学部保育児童学科 特別支援教育講座 数学教育講座	上田 征三 金澤 貴之 澤田麻衣子	5月～ 7月	「数えて計算してぴったりを目指そう」(数と計算)
音楽科	小学部	横堀 莊子 宮前 篤嗣 長田 紗綾	特別支援教育講座 特別支援教育講座 音楽教育講座 美術教育講座	霜田 浩信 阿尾 有朋 菅生 千穂 林 耕史	5月～ 7月	「どんなおと？ きいてかんにてあわそう」 (身体表現)
	小中高	小越 薫子	音楽講座	菅生 千穂	12月	「音楽専攻学生オーケストラによる音楽鑑賞教室」
図画美術 工工作科	中学部	山田 啓太 小林 弥生	特別支援教育講座 美術教育講座	中村 保和 林 耕史	9月～ 11月	「ませようためそうあわせよう」
保健体育科	小学部	小泉龍之介 横堀 莊子 長田 紗綾	特別支援教育講座 保健体育講座	霜田 浩信 中雄 勇人	9月～ 11月	「みんなとぎゅうばん！じゃんぷしよう」 (走・跳の運動)
	高等部	酒井 莉紗 島田 大樹 石井 翔也	特別支援教育講座 保健体育講座	金澤 貴之 中雄 勇人	9月～ 11月	「マット運動 ～声をかけあって技をマスターしよう～」 (器械運動)
遊びの 指導	小学部	小須田朱理 武井 香織 堀部 慧	特別支援教育講座	阿尾 有朋	9月～ 11月	「かみらんどであそぼう」
生活単元 学習	中学部	林 和泉 山口 哲平	高崎健康福祉大学 人間発達学部子ども教育学科 特別支援教育講座	浦崎 源次 木村 素子	5月～ 7月	「みんなでひらこう！にこちゃん屋」
作業学習	高等部	吉田 恵理 和田 拓	東京福祉大学 保育児童学部保育児童学科 特別支援教育講座	上田 征三 金澤 貴之	9月～ 11月	「お客様が満足するカフェスマイルにしよう」 (喫茶サービス)
その他	小学部外	宮前 篤嗣 長田 紗綾 南雲 亮太	特別支援教育講座	金澤 貴之	10月～ 11月	教職大学院報告書「知的障害児・者の移動に関する支援」 (研究支援)
		福田 浩亮 南雲 亮太 堀込 直道	保健体育講座	木山 慶子	9月～ 10月	論文：特別支援学校としての専門性を蓄積・担保・共有するための研修に関する一考察
	学部外	小島 靖弘 金子 芽衣 堀込 直道	特別支援教育講座	霜田 浩信	7月～ 8月	日本特殊教育学会自主シンポジウム「知的障害がある児童生徒の協働的学びと個別最適化の質を問う～授業における効果的な支援について～」
		福田 浩亮 南雲 亮太	特別支援教育講座	木村 素子	11月～ 12月	卒業論文：「交流及び共同学習における障害のある子どもの学習評価～保護者へのインタビュー調査を中心に～」 (研究支援)

(2) 共同研究例

○ 体育科 共同研究授業実践

- ・テーマ：子どもが自ら考え、学び合う授業実践

～知的特別支援学校における「個別最適な学び」と

「協働的な学び」の一体的な充実のための視点を通して～

- ・単元名：「みんなと ぎゅうぼん じゃんぷしよう」（走・跳の運動）

- ・対象：小学部 3・4年生 6名

- ・授業実践者：小泉龍之介，横堀 莊子，長田 紗綾

- ・期日：令和5年11月10日（金）

- ・概要：

高く跳ぶ，遠くに跳ぶ，連続跳びなどのいろいろな跳び方をするコーナーを設置し，友達と楽しみながら運動をする中で，跳運動に必要な部分動作を一連の動きに繋げていく授業を展開した。実践にあたっては，以下のような工夫をしたことで児童の変容が見られた。

「個別最適な学び」の視点では，特に学習の個性化にかかわって，児童が目標を自分で決めたり，跳び方を自分で工夫したりすることに重点を置いた。まず，サーキットのように繰り返し活動し，児童が跳運動に見通しをもつことができるようにした。次に，着地位置を児童が自分で決められるような足形や，高さの異なる風船を天井から吊したコーナーなどを用意することで，児童が「もっと遠くまで」「もっと高く」と目標をもつことができるようにした。また，タブレット端末を定点に設置し，遅延再生アプリを用いて自分の動きを見直しながら活動できるようにした。



「協働的な学び」の視点では，「ぎゅうー，ぼん」という動きの合い言葉を全員で共有したり，各コーナーで互いの動きを見合いながら活動できるようにしたりした。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で授業を工夫したことで，児童が「もうちょっと！」「できた！」と言葉に出し，腕の振り方や膝の曲げ方を変えるなど，自分の姿を見直す姿が見られるようになった。また，友達が遠くまで跳ぶ様子を見て，同じように大きく腕を振り，跳び方を真似する姿も見られた。これらのことから，単元を通して，個々でじっくり学ぶことと他者と関わりながら学ぶことの両方の機会があることで，子どもたちの主体性が高まり，より一層学びが深まっていくことが明らかになった。



報告書の作成 担当者

共同教育学部 教授（附属小学校校長）	渡部 孝子
共同教育学部 附属小学校 副校長	石関 和夫
共同教育学部 附属小学校 教頭	佐藤 真樹
共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
共同教育学部 准教授（教育実践センター）	阿部 充寿

2023 年度 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

学部・附属学校共同研究推進委員会 報告書

2024 年 3 月

発行 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室
学部・附属学校共同研究推進委員会
群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
電話（直通） 027-220-7385（事務局）
ファクシミリ 027-220-7381（事務局）
